

現在の中東情勢は、九〇年代の米帝の方向を決定づける米国大統領選挙を一ヶ月に控え、また、イスラエルの総選挙を控えて、選挙後にむかって流動が作り出されている。

その現象としては、第一には、レバノンの情勢である。レバノンでは米大統領選挙への思惑をもつた米帝とシリアによるレバノン大統領選挙に対する合意がいつたん成立したにもかかわらず、ジエマイエル大統領、レバニーズ・フォーシングによつて、

それが覆されてしまうという事態が起つた。現在、レバノンは、大統領不在、二つの政府が二立している状況にある。まさに、実質的なレバノンの分割になってしまっている。

第二は、蜂起一一ヵ月目に突入したパレスチナ革命である。パレスチナ革命は、ヨルダンの西岸切り離し宣言以来、パレスチナ革命の独立国家建設の問題が緊要の問題として浮かび上がり、その対応をめぐつて、パレスチナ革命内部での矛盾、また

国際的なパレスチナ人民の民族自決権に対する承認とパレスチナ人民の防衛のための外交が問われていた。それがPNCの開催をめぐる問題として、パレスチナ内部、国際関係のなかで、決定的なステップを踏み切れない状態になっている。とりわけ米帝の態度を変更させることはできないこと、また、米帝自身が選挙を目前にし、その政策が、どうなるかは選挙後にならなければわからぬ状況にある。パレスチナ革命は

レバノン分割の危機と中東情勢

一九八八年一〇月一〇日



第 39 号

発行 ウニタ書舗  
東京都千代田区神田神保町1-52  
TEL. (03) 291-5533  
編集 J. R. A.  
郵便振替 東京1-48443  
三菱銀行神保町支店 当座9012656  
会員制 年会費2000円

## 目 次

レバノン分割の危機と中東情勢	1
ストラスブルグでのアラファト議長のヨーロッパ議会社会党系 議員に対する演説(抜粋)(資料①)	11
蜂起民族統一指導部アピール(資料②)	12
レバノン問題(資料③)	14
日本赤軍声明(資料④)	16
重要日誌(1988年9月11日~10月10日)	19

身の問題であること言い置いていった。

同じ頃、レバノン軍司令官アウンが新たな動きを見せ始めている。アウンは、米帝とシリアの合意からもその後の候補者としての位置を外され、キリスト教議員の候補指名からも外されていた。アウンはこれまで、対立関係にあった、レバニーズ・フォーミズに接近し始め、ジャジヤやダニ・シャムーンなどとの会談を行なった。結果、開催場所の合意がなされた。後、マロン派大司教スマイルと会談し、キリスト教徒議員との調整を行なった。結局、開催場所の合意がなされた。

モスレム左派などのレバノン民族派は、いっせいにこの決定を非難しこれをクーデターと呼んだ。ホス首相は、ホス内閣が合法的な政府であり、アウンの軍事政府は非合法であると非難した。

ジェマイエルは分割を作つて、大統領の任期を終えた。

令官と秘密会談を行い、アウンを首班とする軍事内閣を暫定政府にすることを決め、大統領布告五三八七、五三八八号を発布し、最後のテレビ演説で発表した。ジエマイエルのアサド大統領との会談も、予想外のことであったが、軍人内閣の突如の指名も、レバノン人には寝耳に水であつた。

エル、アサド会談では、選挙開催についての合意が行われたが、開催場所での合意が成り立たず、開催期日を二三日に延期することで両者の合意がなされた。また、レバニーズ・フォーリンズは、ジェエマイエルは、この時点でダーヘルに合意していたとジェエマイエルを後で非難している。

いまま、選挙当日の開催が行えなくなつた。

的な支配下にあり、レバニーズ・フーリー・シズを排除することになるこの合意にのることができなかつたと思われる。なおかつ、アウンの指名は一面では、第一次の内戦を軍人シエハブによる暫定内閣で危機を突破した例に習おうとしたことも考えられるが、レバニーズ・フーリー・シズとア

明確に、この背後には、レバニーズ・フォーシズの意図が働いている。ジエマイエルも、シリアを訪問した時点で、米帝とシリアの合意に乗ろうとしたと思われること。しかし、旧来のキリスト教右派の政治指導者は、レバニーズ・フォーシズの軍事

ジエマイエルが指名した内閣は、  
アウン司令官を首相、国防相、情報  
相に任命し、三人のモスレムの軍人  
を含む六人の軍人内閣を指名した。  
しかし、モスレムの軍人はこの内閣  
に参加することを拒否し、三人のキ  
リスト教徒の軍人によって、構成さ  
れることになった。

マロン派大司教スマイルと会談し、続いて、西ベイルートで、フセイニ国会議長、ホス首相、アマル指導者ベリ、スンニ、シーアの宗教指導者と会談した。この会談で米帝がシリアとの合意を尊重していることを確認した。そのあと、アウンとも会談した。

トから米国大使館員二二人がヘリコプターでキプロスに脱出した。レバニーズ・フォーシズの支配が明確になつた今、米帝にとって、東側も安全でなくなつたことを意味している。

ジエマイエルが指名した内閣は、  
アウン司令官を首相、国防相、情報  
相に任命し、三人のモスレムの軍人  
を含む六人の軍人内閣を指名した。  
しかし、モスレムの軍人はこの内閣  
に参加することを拒否し、三人のキ  
リスト教徒の軍人によって、構成さ  
れることになった。

レバノンの独立後、初めて二つの  
政府ができる事態になった。シリア  
と米帝の合意はこれによつて、ふき  
とんでしまつた。危機の出口を見つ  
かるどころか、二つの政府が存在す  
る。この情勢を反映して、東ベイレー  
ンの連合の力におされた可能性が  
高い。それがその後のレバニーズ・  
フォーシズとアウンによるジエマイ  
エルの政治軍事的影響力の排除につ  
ながつてゐる。

いずれにしろ、このアウン内閣の  
指名は東西ベイルートの緊張を一挙  
に高め、グリーンラインでの戦闘、  
山岳部でのドルーズ民兵とレバノン  
軍のキリスト教徒部隊の砲撃戦が勃  
発し、内戦状態になる危険性が高ま  
つた。

1988年11月30日 第39号

月刊 中東レポート

立国家にいたる措置を早急に問われていた。

米帝の大統領選挙の結果は、九〇年代にいたる国際階級闘争の趨勢を決する敵の側の主要要素であり、中東情勢はそこからの直接的な影響を受ける。中東情勢の流動は、大統領選挙の結果にむかって、さまざまな思惑がぶつかりあっている状況である。

・中東担当国務次官補リチャード・マーフィーとシリアの会談が合意に至らなかつたことにあると考えられてゐた。レバノンの政治家の間ではこの危機の打開のために、シリアと米帝の再度の話し合いが望まれてい  
た。  
また、シリアは、いつたん米帝に  
対して強硬姿勢を示すことによつて  
そのドーベルニング・パフォーマンスを  
実現する所存である。

た。長時間の交渉の結果、両者は、レバノン北部アツカール選出のマーク派の国會議員ミカエル・ダーヘルを次期大統領にすることで合意したと発表した。モスレム左派勢力が要求していた政治改革の問題は、大統領選出後に持ち越されることになった。

このミカエル・ダーヘルの指名は、ソリヤの戦術の成功のようと思つた。

ルが対抗措置をとると警告し、緊張が高まった。

レバニーズ・フォーシズは、即座に合意全面反対を表明した。しかし二七人のキリスト教議員はマロン派大司教スファイルとの話し合いで、ダーヘルの対立候補として、レイモン・エッデを推すことを決め、議会の開催地を旧国会ではなく、現在國会議事堂に定めることになった。

務長官と会談し、シリアとの合意保持という米帝の立場の再確認を行っている。シリアは米帝との関係では人質問題で、ペイルート大学の教授アラブ・リーダーのレバノン問題での人質のひとりを解放し、レーガン政権の得点をあげさせている。シリアは、また、アラブとの関係では、いずれにしても、キリスト教右派勢力の米帝との合意の覆し、また、シオニスト、イラクとの関係強化は孤立した状態にあるシリアにとって困難な局面をつくりだしている。

米帝は、前回のマーフィーとシリアの会談を決裂させたが、今回再びシリアとの再交渉、合意に至った背景には、レバノン問題での仲介の失敗が選挙に影響を与えること、また人質問題の解決による選挙戦への影響の考慮などの要素があると思われる。しかし、同時に、レバノン問題への深入りは、大きな失敗を招き、深入りしないでやろうとしている。それは、シリアとの合意を行つてもレバニーズ・フォーシズに受け入れるよう圧力はかけないなどのあり方としてあらわれている。レバニーズ・フォーシズは、その間断を利用して、自己の勢力を拡大している。

このレバノンの動きに新たな要素として加わってきたのは、フランス帝国主義である。旧宗主国立場は、明確にレバニーズ・フォーシズの立場を支持するものであつた。まず、フランス帝国主義は、米帝シリヤの合意をレバノンの主権無視として非難し、キリスト教右派の防衛のために具体的に動きはじめたレバノンに対しては特使を派遣し、同時に外相デュマは、国連総会の場で、ソ連、英國、米帝、中國などの安保理常任理事国の外相と会談し、レバノン大統領選挙を国連軍の防衛の下で行わせるよう工作を行い、レバニーズ・フォーシズの意を受けて、レバノン問題の国際化を図っている。

もちろん、これには、レバニーズ・フォーシズの司令官ジャジヤが歓迎の意を表明した。これに対して、ホス首相は拒否を表明し、また、マル指導者ベリは、国連軍の監視かどうかの問題ではなく、レバノンの政治問題であると批判している。

このプランは、すでに九月段階でレバニーズ・フォーシズの副司令官パクラドゥニが明らかにしていた。また、パクラドゥニは、ファンストであるが、フランスの社会党の首相ロカールと親しい仲にあり、レバニ

アラブ諸国は、アウン内閣の承認を取り付けの話し合いをほとんどの国がボイコットし、イラク、チュニジアの各代理大使、エジプトの利益代表部の代表が話し合いに応じたが、これらの中も立場を明らかにしなかつた。アラブ諸国は、レバノン問題緊急会議を開き、レバノン危機の打開について、話し合おうとしている。また、シリアは、サウジを通して、イラクにレバニーズ・フォーシズへの援助をしないよう要求したと言われている。

シオニストは、レバニーズ・フォーシズの支配体制が固まる同時に公然と東ベイルートに登場し、レバニーズ・フォーシズの支援を行つてゐる。レバニーズ・フォーシズはこの事実を否定しているが、シオニストの対レバノン調整将校ウリ・ルブランが、東ベイルートに入り、ジャジヤなどと会談したという事実が報道されている。これはシリアに対する明確な牽制である。また、シオニストのねらいはレバノンの混乱であり、レバノンが内戦的な状態になればなるほど、モスレム左派勢力はそ

南部レバノンの状況は、二二日にアマルの指導者ダウド・ダウドなど三人がベイルート郊外で暗殺され以来、パレスチナ勢力とアマルとの緊張が高まっていた。ダウド・ダウドはアマルの南部司令官であり、これまで、「キャンプ戦争」の指揮者として、また、南部の対シオニスト戦の妨害者として、パレスチナ革命勢力、ヒズボラーから憎まれていたアマルは最終的には、この暗殺はシーア派内部によるものとして発表しヒズボラーであることを暗に示したが、南部ではパレスチナ革命勢力との誘拐合戦になつた。サイダでは事態を憂慮した、レバノンのモスレム左派勢力が話し合い、双方の人質を釈放させたが、矛盾自身は納まつてはいない。

また、一〇月三日には、レバノンのモスレム左派とパレスチナ革命勢力、これは反アラファトの救済戦線だけでなく、PFLP、DFLP、ファタマ革命評議会派も参加して、アラファト議長派の南部レバノンでの挑発活動を非難した。具体的にはサ

レバニーズ・フォーシズとアウンのレバノン軍は、この米帝の動きに對して、明確な敵対行動をとった。レバニーズ・フォーシズは、西ベイルートに行く、三〇人の護衛をひきつれた米大使のコンボイを妨害しようととした。また、大使館の護衛を拉致するなどの行動にでた。アウンは米国大使館からの直接ヘリコプターを飛ばすことを禁止し、レバノン軍基地からの使用を制限し、米国大使館の残留人員リストの提出を要求した。これらも前例のないことであつた。レバニーズ・フォーシズは、一〇月三日になつて、ジエマイエルの拠点メトンを制圧し、ジエマイエルの民兵一〇〇〇人を武装解除し、ジエマイエルを自宅軟禁にした。レバニーズ・フォーシズの司令官ジャジャヤはこれを「東の軍事、治安、政治、財政、情報の統合」措置であると発表した。ジエマイエルの所有している放送局、施設を接收した。ジエマイエルに對しては、海外の銀行にもついている預金の公開を迫り、ジエマイエルが國家の金を横領したとして一〇〇〇万ドルの支払いを要求している。ジエマイエルは、家族を連れ、海外に出国しようとしていたところを阻止された。

レバニーズ・フォーシズは、またシエマイエルがダマスカスに行き、シリアとダーヘルの選出について合意してきたと非難していた。いずれにしろ、これによつて、レバニーズ・フォーシズは、東ベイルートの全面的な支配権を握つた。これに対して、アウンは、レバノン軍はいつでも、レバニーズ・フォーシズを制圧できるといつて、レバニーズ・フォーシズの軍事的勢力の拡大を黙認していることについて、弁解している。

しかし、実体は、レバニーズ・フォーシズにレバノン軍が抑えられてゐるということである。アウンがこれまで、レバニーズ・フォーシズと対立関係にあつたとき、何ら手出しができなかつたことでも明らかである。レバニーズ・フォーシズの側は公然としたシオニストとの関係を再関し、モサドが東ベイルートに事務所を再開していることなど、軍事的な支援が強化されている。また、シオニストの傀儡「南部レバノン軍」もアウン政府への忠誠を誓い、明確なシオニストの支援関係がつくられている。また、軍事物資も、イスラエル、イラクから運ばれ、東ベイルートに陸揚げされている。

アウン・ラベニーズ・フォーシズ連合と呼ばれているが、アウンはバニーズ・フォーシズの言いなりになる人形でしかなく、ジャジャが全ての実権を握ったことになつていている。レバニーズ・フォーシズの立場を支持しているのはシオニストイラクだけなく、フランスも積極的に支援している。

同時に、スファイルおよび、キリスト教徒議員は、ジエマイエルに対するレバニーズ・フォーシズの措置をやわらかく批判している。これは旧来の伝統的なキリスト教徒の指導者たちがレバニーズ・フォーシズの動きを喜んでいないことのあらわれである。しかし、レバニーズ・フォーシズの力の前に公然と反対することはできないのである。

これに對して、レバノンのモスレム左派などの、民族主義的勢力は、九月二九日、ホス首相の呼びかけで西ベイルートのブリストル・ホテルで「緊急国民会議」を開き、レバンの統一、早期の大統領選挙、ホス内閣の支持を決議した。この会議には、二十二人の国会議員、一八人の元閣僚、二人の元首相が参加、元大統領フランジエの議長のもとに行われた。

さらに、一〇月二日には、ジュン・ムフタル・パレスで、モスレム、左派諸党の会議を開き、統一した政治軍事司令部をつくることで合意した。その目標を民族的、非宗教的、民主的体制の第二共和制とし、同時にホス内閣を支持した。これに参加したのはベリ、レバノン共産党のジョージ・ハウイ、シリア系バース党のアセム・カンソ、元レバニーズ・フォーシズ司令官エリ・ホベイカ、大シリア社会党のふたつの派、ナセリストのムスタファ・サードで、アウン政府とレバニーズ・フォーシズに對決していくことを打ち出している。このふたつは、前者は、政党政治家の会議であり、後者は民兵組織をもつ勢力の会議であり、いずれも、アウン政府に對決していくことを表明しているが、後者は、民兵の武装解除に反対するジュンバラットの思惑が入っている。

シリアは、アウン内閣を非合法であると非難し、ホス内閣の支持を表明した。シリアは、レバノンに駐留しているシリア軍をフル・アラートの体制においている。また、外交的には、シャラ外相の国連総会への出席の際、マーフィー、シュルツ米国

米帝は、今回にもあらわれているよう<sup>1</sup>に仲介はするが、それを実行させる圧力をかけることをしてこなかつた。また、今回の事態にあらわれて、失敗することを恐れる傾向があり、その弱みをついて、レバニーズ・フォーシズがその力を拡大しているのである。

いずれにしろ、米帝にとつては、あとは次期大統領の課題にしてしまうことによつて、選挙への悪影響を回避することのほうが、現在の失敗を拡大しないことになると考えていふと思われる。

シリアは、ガルフ戦争の停戦、ヨルダンの西岸蜂起とPLOとの和平交渉に向かおうとする動きのなかで、孤立化を深めている。とくに、イラクがレバノンの反シリア勢力、レバニーズ・フォーシズへの援助を行い、また、シリア国内の反政府分子の援助を行なうことでシリアに対する攻撃を行おうとし、また、ヨルダンも注意深く、その軍事力の増強を図りシリアに対抗する力を作り上げようとしている。

シリアは、基本的にはソ連との関係強化と、レバノン問題での米帝との関係を利用しつつ、現在の孤立し

た状況を乗り越えようとしている。レバノン問題では、イスラエルの手先であるレバニーズ・フォーシズを弱めることがシリアの安全上、また、地域の軍事バランス上に必要なことであった。しかし、今回の大統領選挙をめぐる結果は、反対のものになつた。レバニーズ・フォーシズとの軍事的対決は、イスラエルとの軍事的対決を意味し、イスラエルとの戦争の準備がなければならない。シリアは、それゆえにレバノンの安定化を米帝との交渉によつて、バランスの上に作り上げようとしていたのである。現在の状況で、米帝自身が深入りをさせようとしているため、決定的な解決は難しい条件にある。したがつて、シリアは、東よりも分裂した状態にあるモスレム左派などの民族派の勢力を対キリスト教右派、具体的には、反アウン、レバニーズ・フォーシズでの統一を作ることで、東とのバランスを作ることになるだろう。

二 パレスチナ蜂起とPNC

の再編の動きとして注目される。同様の内容がシリアとの間で、先月段階で話し合われるという情報があつたが、それが実際のものとして行われたことを意味する。

モスレム左派内部の矛盾は、アマルの指導者ダウド・ダウドの暗殺に示されるように、南部レバノンのヒズボラー、パレスチナ革命勢力のゲリラ戦をめぐって、それを歓迎しないアマルとの間での矛盾が続いている。ヒズボラーは南部から、アマルによって、追い出され、パレスチナ勢力は、スールのキャンプへの武器搬入、また、対イスラエル作戦に対する阻止などで、アマルと対立していった。さらにこれを複雑にしているのが、アラファト議長派の動きであり、明確に反シリアでの立場からの動きを行い、アマルの行動を正当化させる根拠となっている。

## 二 パレスチナ蜂起とPNC

パレスチナ人民蜂起は一ヵ月目にに入った。この間シオニストは、プラスチック弾を使った新たな弾圧を開始した。このプラスチック弾の使用による弾圧は、シオニストの蜂起を抑えきれないいらだちを表明している。このプラスチック弾は、イギ

里斯が北アイルランドに使用した悪名の高いものであり、あたればゴム弾よりも死亡する確率が高いものである。八月からの負傷者の一挙的な増大は、シオニストのプラスチック弾の使用によるもので、また、死者も増えている。九月二七日のゼネストの日には、シオニストはプラスチック弾によって、四人を虐殺し、七〇人近くを負傷させた。

この負傷者の増大に、米帝、英帝もシオニスト批判をせざるをえない事態になっている。これに対しシオニストの戦争相ラビンは、九月二八日に、プラスチック弾の使用を擁護し、「すべての衝突で、暴力行動にかかわるものはもつと負傷するだろう。我々の目的は、暴力行動に加わる者の負傷者を増やすことであり、殺すことではない」、「負傷者を増やすことで、街頭での騒動を起こすことの対価が高くつくことをパレスチナ人に教えるためである」と説明し、負傷者を増大させることによって、パレスチナ人を恐怖させることによつて、蜂起を鎮圧することを明らかにした。しかし、同じ発言のなかで、プラスチック弾の使用によつても、パレスチナ人の行動が減つていなことを認めた。

再びレバノンの政府をめぐる問題にもどると、一〇月一八日の国會議長の任期切れにともない、議会の開催と、新議長の選出が必要となつてゐる。キリスト教右派勢力は、国会議長の選出よりも先に、大統領を選ぶべきという立場を表明しており、モスレム左派側は、非現実的と否定している現状にあり、国会開催の見通しは立っていない。

現在の力関係は、これまでの過程をみてもわかるように、予想以上にレバニーズ・フォーシズの力が強かつたということであり、シオニストフランス帝国主義、イラクの支援のもとに、米帝とシリアの合意であつたレバニーズ・フォーシズの排除を阻止しただけでなく、東ベイルート

もいわれており、ジエマイエルの民兵一〇〇〇人を糾合し、軍事的な支配を完成させた。レバノン軍は、キリスト教徒側はもともとカタエブ、レバニーズ・フォーシズの影響のもとにあり、イスラエルの供給する武器で武装したレバニーズ・フォーシズに対峙するほどの力はない。これはアウンの態度を見れば明確である。また、すでにレバニーズ・フォーシズは、彼らの支配地区においては、実質的な政府機関として、すべての生活面にわたっての支配を貫徹していく、実質的な分割国家を形成していた。しかし、政治上、公然と分割を宣言することは、キリスト教徒の地域を完全に孤立化させることになる。それゆえに、シリアからレバノン

自由党党首のカミール・シャムーンの死によってその影響力を失い、支配政党であるカタエブはジェマイエル一家の影響を排除し、レバニーズ・フォーシズのジャジャの影響下におかれようになっていた。ピエールの息子であるアミン・ジェマイエル大統領は、キリスト教徒の伝統的指導部に属していた。

マロン派大司教スマイルのものとにある二八人のキリスト教議員は、マロン派の宗教的権威のもとに結集することによって、レバニーズ・フォーシズに対する独立性をもとうとしているように見えるが、東がジャジャの軍事的支配下にあるかぎり独自の行動は難しく、反シリアの最大公約数で、レバニーズ・フォーシズ

帝にとって、シリアは中東問題の鍵を握る位置にあり、また、大統領選挙を前にした人質問題の解決とあわせて、シリアの意向を反映しながらレバノン問題の解決を図ろうとしてきた。人質問題の解決の選挙への重要性は、九月末に民主党のゲイリー・ハート上院議員がダマスカスを訪問し、民主党側の工作をしようとしたことでも明らかである。その合意においては、レバノンの統一に障害となつてゐる左右の勢力を排除することを合意事項としていたと言われており、それは、ひとつはヒズボラーであり、もうひとつは、レバニーズ・フォーシーズであった。しかし、

ストラスブルグ入りと同時に、ヨーロッパを回り、P.L.O.の外交陣開拓を牽制していたシオニスト・ペレス外相は、「アラファートはイスラエルを承認すべきであり、中東和平に対する明確な立場を明らかにすべきである」とアラファートの立場を非難した。この発言は、「一見するとP.L.O.がイスラエルを承認すればイスラエルはP.L.O.と話し合うという立場を表明じた」と見えたが、その後スラエル外務省が、いつさいのP.L.O.との話し合いはない」と、そのニュアンスを否定した。首相シャミルはアラファート議長とフランス外相を介したイスラエルの平和活動家との話し合いを非難した。

米帝は、キャンプ・デービッド合意九周年の九月一七日、米国務長官シュルツは、P.L.O.の国連パレスチナ分割案にもとづくパレスチナ国家の建設を否定し、イスラエルが分断されるような解決は、イスラエルの安全に対する脅威であるとして否定し、旧来のパレスチナ独立国家建設に反対する立場を繰り返した。またイスラエルの被占領地併合にも反対する立場も繰り返した。

九月二八日、レーガンが、イスラエル外相、エジプト外相を招請して

の会談が行われた。これは、米帝の新たな中東和平ニシアチブの開始かといわれていた。この会談では、国際和平会議への P L O の参加問題が話し合われたといわれているが、その合意に失敗した。ペレスはこの会談後、「会談は失敗したが」「和平は死していず、和平のプロセスを継続する基礎を我々はもつていると、いう重要な宣言である」と述べた。エジプトは、同じ日に、P L O に対して、米帝の大統領選挙、シオニストの総選挙の前に、P N C を開いて亡命政権に対する立場を明確にするべきではないとムバラクが発言し、一〇月中の P N C 開催に反対を表明した。これは、明らかにレーガン、ペレスとの会談を通して、米帝、イスラエル側の態度になんらの変化がなく、現在の P N C で亡命政権の樹立を宣言しても、意味がないことを理解したということである。

また、エジプトのイスラエルとの領土問題であるタバ交渉において、九月二九日には国際調停案が決定され、エジプトの領土であることが認められたが、シャミルは「タバ交渉からいえるのは、国際調停に委ねても、よい結果ができるわけではない」という教訓を導き、自らに有利な国

際調停しか認めないという立場を明らかにした。これもムバラクのPNC開催に対する態度への影響を与えていると思われる。

前号で述べたように、ソ連もPNCの米大統領選挙の開催に反対の立場である。もちろん、ソ連は、パレスチナ決定を第一に尊重する前提での提起であったが。また、ソ連、東欧は、PLOにその政治綱領を明確にするよう求めているといわれている。これはPLOがイスラエルの承認を行うことを要求していることである。PLO側はこうした要求を否定しているが、現在のソ連の外交政策からは当然の要求である。

アラブ反動との関係では、イラクのクルド人の解放闘争に対する化学兵器の使用を隠蔽しようとするアラブ反動と同一の立場に立ち、また、レバノン問題でも、シリアに対する敵対的な態度をとるなど、アラブ反動におもねった態度をとっている。

以上のようにPLOの外交展開が、一定の前進をしたにもかかわらず、PNCの開催に至る条件を整えることはできていない。とくに、米帝、イスラエルが何らの態度の変化をしていないことの問題が大きく、ソ連などの社会主義国からだけでなく、

アラブ反動のエジプトからも、米大統領選挙、イスラエル総選挙の前にPNCの開催に賛成しない立場が表明されるに至った。

PLO内部の統一問題では、前号で報告したように、PLOとPLOの外にいる反アラファト派との矛盾だけでなく、つくりあげるべき政府の内容をめぐるPLO内部での対立また、被占領地でのモスレム原理主義者の分裂行動と、PNC開催をめぐっての分裂の危機があつた。

PLO内部では、政府問題に言及せず、パレスチナ独立国家承認とヨルダンの西岸切り離し後の空白を国連の管理におくことを基本にして、政府問題をさけて、合意が一定つくられたといわれていた。

しかし、国際和平会議そのものを否定しているPFLP—総指令部派などのパレスチナ民族救済戦線に結集するパレスチナ革命勢力との統一は、難しい状態にある。救済戦線はアラファト議長の外交展開を批判し、投降主義者と決めつけている。これにはレバノンのキャンプの支配をめぐる問題も絡んで、リビアの仲介にもかかわらず、統一の気運は生まれていない。レバノン大統領選挙をめぐる情勢のなかで、いつそう複雑な

これは、ヨルダンの西岸切り離し宣言以降、人民委員会の解体にねらいを定めて、大規模な鎮圧作戦を繰り返してきたにもかかわらず、蜂起を鎮めることができなかつたことを示しており、さらにその鎮圧方法をエスカレートさせることに頗らざるをえなくなつてゐる。これまで、警棒で殴打すること、また、火炎瓶を投げるものに対する射殺の許可を行つてきただが、それらがいつこうに蜂起を弱めることにならなかつことを意味してゐる。負傷者の拡大から言えば、シオニズムは無差別に、発砲を行い、負傷させてゐる。

蜂起民族統一指導部は、モスレム原理主義者のイスラーム抵抗運動（ハマス）の分裂行動の開始により、蜂起の分裂の危機に直面したが、蜂起民族統一指導部、また、在外のPLOによる統一のための努力が成功し、ハマスも蜂起の統一した闘いを行う方向にもどつた。一〇月六日、ハマスは、パレスチナ内部の対立を終わらせることを呼びかけた。

蜂起民族統一指導部は、パレスチナ独立国家樹立の要求と、それに至る国連監視によるイスラエル占領軍の撤退と、パレスチナ人民の権利の防衛を訴え、蜂起の戦闘化と裏切り者

蜂起の闘いは、敵のプラスチック弾の使用による負傷者の増大と殉教者の増大のなかで、人民は恐れるどころか、その怒りを燃やし、闘いの火はさらに燃え上がった。人民委員会の攻撃部隊は、シオニストへの炎ビン攻撃、また、裏切り者に対する攻撃を行い、活動を拡大している。シオニストの弾圧は、プラスチック弾での攻撃にとどまらず、抵抗の激しい村やキャンプを封鎖し、しらみつぶしの家宅捜査を行い、蜂起組織者、投石者や税金の不払いを行っているものを逮捕している。この弾圧は、一〇月二日には東エルサレムでまで行われ、住民を夜中にたたき起こして、逮捕キャンペーンを行っている。ある村では、男性住民のほとんどを逮捕され、代わって婦人たちが抵抗を続けているところもある。また、住居の破壊も依然として行われている。ガザの難民キャンプが盛り上がるのを恐れたシオニストが事前にガザ市を開鎖したものであった。これは、ガザの元市長でヨルダン派のラシド・シャワの葬儀で蜂起が行われた。この日パレスチナ全土でゼネストトが行われた。また、西岸でもヘブ

ロンが極右シオニスト・カハネのヘブロン入りの阻止の口実で閉鎖されている。シオニストは弾圧のたびに、人民委員会のネットワークを壊滅した、蜂起の指導者を逮捕したとかの成果を掲げるが、それによつて、蜂起は鎮まることにならなかつた。在外の P L O 指導部は、ヨルダンの銀行を通して、ヨルダンの西岸切り離し以来滯ついた、教員などの公務員の給与の支払いが可能になつたと発表した。イスラエルの P L O の送金妨害のために、賃金の支払いが困難にされていた。在外の P L O では P N C 開催にむけた努力が行われている。しかし、現在に至つても、P N C 開催のめどが立つていない。これには、ふたつの要素が存在している。第一には、パレスチナ独立国家の樹立とそれへの国際的な援助と承認、第二には、パレスチナ内の統一である。とくに九月に入って、在外のパレスチナ革命勢力間の不統一の問題だけではなく、被占領地内の蜂起自身に、モスクレム原理主義者、ハマスの分裂行動が登場し、被占領地内にも、分裂の危機が持ち込まれる事態にあつた。国際面では、アラファト議長がス

トラスブルグでのヨーロッパ議会社会党系議員に対する演説を行なうなどヨーロッパでの外交的前進をつくった。これは、前号で報告した非同盟諸国外相会議でのPLOの方向に対する支持とならん、パレスチナ独立国家建設と国連によるイスラエルの撤退と、パレスチナ人の防衛の方向への支持を形成している。その後、アラファト議長は、インド、バングラを訪問し、また、一〇月三日には一九八五年來、初めて訪中を行つた。また、東欧では、ホネッカ、東ドイツ国家評議会議長との会談を行つた。また、アラブ・レベルではエジプトサウジの訪問を行つてゐる。

基本的には、これらの外交で、政府問題に触れないで、パレスチナ独立国家樹立の権利の承認、また、国際和平会議に至るまでの国連による被占領地の防衛を訴えた。また、イスラエルの承認問題では、パレスチナの民族的権利、すなわち、パレスチナ民族自決権の承認と一体になつたものでなければならないことを表明している。また、そのためどのようないスラエル代表とでも国連の場で話し合う用意があると語つている。

LOを支持しており、イスラエルの破壊をめざすテロリストの組織であると登録の取り消しを訴えている。これがイスラエルの「民主主義」である。

全体としてのリクードの優位は、わずかなもので、再びリクードと労働党の「統一政府」になる可能性が高いことが、イスラエル内の世論調査で明らかになっている。リクードの圧倒的優位が、考へられていたが、蜂起の継続が、イスラエル内の平和を求める立場を増やし始めていることを意味している。蜂起が一ヵ月目に入ることによつて、力での圧殺では、解決に至らないことが徐々に理解され始めてきたと思われる。

軍事バランス上では、イスラエルは、米帝の技術的共同のもとで、スパイ衛星の打ち上げに、九月一九日に成功している。これで、シオニストが、アラブ諸国に対する軍事的優位をさらに強化したことになつてゐる。アラブ諸国は、このイスラエルのスパイ衛星に対抗措置をとることが要求されている。

### 三 米帝の大統領選挙と情勢の展

イケル・デュカキスと共和党の現副大統領ジョージ・ブッシュの間で鬭争が行われており、ブッシュが現在、デュカキスをリードしているといわれている。共和党か、民主党か、ブッシュか、デュカキスかによって、九〇年代に至る米帝の方向が定められ、それは世界情勢に直接的な影響を与えることになるだろう。ブッシュは基本的ににはレーガン政権の政策の継承者であり、レーガン政権の政策が継承されることになるだろう。しかし、デュカキスが大統領になった場合、米帝のグローバルな役割を弱め経済上の保護主義を強めることになる。これは帝国主義間の矛盾を激化させていくことは必至であり、反帝勢力の側を有利にするだろう。しかし、中東問題ではデュカキス夫人がユダヤ人でシオニストであることを含め、「当選したら、テルアビブにある米国大使館を、エルサレムに移す」と発言しているように、アラブ諸国との関係を抜きにイスラエルの支援を行う立場にある。デュカキスが大統領になつた場合中東総体においての米帝離れが進行し、ソ連や欧州との関係に、イスラエルとの対峙条件を求める声が大きくなる。パレスチナ問題では、平和交渉の間

題はさらに遠のくことになり、現在と違ったアプローチが必要とされるだろう。

ブツシユの場合、現在レーガンが行っている中東政策、つまりソ連の影響力を排除する観点から、アラブ諸国への影響力を強化していく展開が続けられることになる。そのバランスのなかで被占領地の問題をとらえていくことになるだろう。

ソ連はゴルバチフ書記長の最高ソビエト議長に就任によって、ゴルバチョフ体制で、九〇年代に入つていくことが確実となつた。ソ連の側からは緊張緩和を外交展開の基本において、世界各地の「紛争地帯」の緊張緩和が進められてきた。デュカキスの登場は、帝国主義を弱めることになり、社会主義および反帝勢力を有利にしていくだろう。

現在の流動は、米帝の大統領選挙への影響、また、それまでの空白を利用した動きとしてある。レバノン問題においても、米帝の新大統領が明確になった段階で、レバノンの大統領選挙が可能になるだろうといわれている。レバニーズ・フォーシズは選挙を前にして、米帝が、現在深くかかわってこないことを利用し、レバニーズ・フォーシズの既得権拡

ストラスブルグでのアラ  
ファト議長のヨーロッパ  
議会社会党系議員に対す  
る演説（抜粋）

資料①  
人を行い、米帝の次の政策展開に備ており、シリアは人質問題などをひって、選挙を前にした米帝の動きを利用しようとしてきた。パレスチナ革命は、その戦術展開、米帝の次の大統領の政策によつて、規定されることになるだろう。

1988年11月30日 第39号 月刊 由東レポート

いずれにしても、パレスチナ内部問題は、元来の全土解放、話し合い拒否の立場に立つ救済戦線とイスラエルの存在を前提に獲得できるところからパレスチナ国家を建設していくという立場の存在として七〇年代から矛盾となっていた。ヨルダンの西岸切り離しは、ヨルダンが手を引いたあととの政治的空白をイスラエルが併合によって既成事実をつくる前に、PLOが政府を宣言して空白を埋めようと急ぐことで、矛盾を大きくしていた。

これまで、PNCの開催予定が、小刻みに延期されることになっていた。一〇月七日にPLO執行委員会の開催が予定され、最終的なPNCの開催日を決めるといわれていたが現在の段階で、PNC開催予定の公式発表はない。

これらの経緯のなかで明らかとなつたように、PNC開催の外内両条生

は、整っていない。また、シオニストがまだ具体的な併合策動を開始していないという条件もあり、米大統領選挙、イスラエル総選挙のあとにPNCが行われる可能性が高くなっている。パレスチナ人民自身の手によって、蜂起の闘いは継続されている。蜂起自身の飛躍が問われている。ながらも、国際関係と武装闘争の關係でのジレンマがあり、人民の闘いの勝ちとった成果をもって、集約し、闘争を次の段階に高めていくことが必要とされている。シオニストの側は、現在の状態のままで、蜂起に参加しているパレスチナ人民に消耗感を与えていくことによって、蜂起の発展を阻止しようとしており、蜂起の質的な転化が必要とされている。

選挙を目前に控えて、イスラエル内では、これまでのリクード・ブルック、労働党との選挙戦が続いている。外交展開では、ペレスがアラブアラブ議長のヨーロッパ外交に対抗した形の西欧外交を行い、シャミルは、ハンガリーを公式訪問し、(ハンガリーは非公式としているが)、双方の大東欧外交によって、東欧との関係改善を進めている。シャミルは、ハンガリーを公式訪問し、(ハンガリーは非公式としているが)、双方の大東欧外交によって、東欧との関係改善を進めている。シャミルは、ハン

貿易工業相もハンガリーを訪問している。他の東欧諸国も一様にイスラエルとの国交回復にすすんでいる。また、中国も、イスラエルとの軍事技術協力が噂されるなど、関係を緊密にしている。

非難を行つたことである。労働党はリクードの選挙むけので、つち上げ取り合つていながら、リクードは選挙の中にもちこもあうとしている。これは、リクードがいまだ絶対多数を獲得できる状態にないことを意味している。

もうひとつは、九月二八日で選挙に参加する政党の登録が行われたが、選挙管理委員会は、「テロリスト・ギヤング、ラビ・カハネのカハ党を「人種主義、非民主的である」として、選挙への参加を禁止した。これに対して、カハネは正しい反論をしていて、「自分が人種主義であるなら、ユダヤ教徒はすべて人種主義である」と。労働党も、リクードも人種主義的なものでもないにもかかわらず、その本音をそのまま主張しているから、カハネを禁止することで、「非人種主義的、民主主義的」な体裁を保とうとしているだけである。カハネはアラブ人を「イスラエル」からすべて追い出すことを主張している。

この選挙管理委員会は、もうひとつ、「非人種主義的、民主的」体裁を保つため、「イスラエル・アラブ」の党である「進歩的リスト」党の登録を承認した。これに対し、リクードが成り立つべき、この党が

(一) 九月九日は、蜂起九ヵ月の終了を記念し、一〇ヵ月目に突入するためのゼネストの日である。

(二) 九月一〇日は、閉鎖されているパレスチナの機関と連帯する日である。

(三) 九月一三日は、ストラスブルグの欧州議会に出席している兄弟アブ・アンマールを記念する日である。

(四) 九月一五日は、我々の戦線内部の裏切り者を一掃する日である。そして、「民政」から辞任していない人々に対して、早急に辞任するよううに要求する。

(五) 九月一七日は、サブラ・シャテイーラ虐殺で倒れた人々、また、すべての虐殺された人々を偲んでゼネストを行う日である。

(六) 九月一八日は、わが人民に対してシオニストが行つたことへの報復として、デモを行い、シオニストを攻撃する日である。殺人、投獄、殴打、破壊という敵の野蛮さに対決せよ。

(七) 九月二二日は、一九四八年に成立するはずだったパレスチナ国家を

記念する日である。パレスチナ人民に独立したパレスチナ国家のより強固な建設を宣伝する日である。人民委員会は宣伝を行え。

一九八八年九月八日

P L O / 蜂起民族統一指導部

●アピール二六号

「パレスチナの呼びかけ」

一、イスラエルは六七年に占領したパレスチナの領土、アラブの領土から撤退せよ。

二、イスラエルはパレスチナ全土をつぎつぎに併合しようとする決定をすべてやめよ。すべてのパレスチナ領土に建設しようとしているセツルメントの建設をやめよ。

三、パレスチナの領土をすべて国連の監視下におき、パレスチナ人が、自由に、自分たちの権利を決定できるように、数カ月間の期間を与えよ

四、中東問題の最大の問題であるパレスチナ問題のための国連の主催による実効力のある国際和平会議を開催し、イスラエルのパレスチナ領土からの完全で全面的な撤退とパレスチナを国連の管理下におくことを要求する。

国際和平会議では以下の点が確認されなければならない。

①イスラエルを国連安保理決議六〇五号、六〇七号、六〇八号に従わせること。

②一九四五年の非常措置によるすべての法、軍令、国内的・国際的な措置を廃止すること。

③イスラエル軍はすべてのパレスチ

するゼネストの日である

された人々、仕事を奪われを訪問し、彼ハイキを行え領当局の学校に對して抗議する。一〇月九

(1) イスラエルを国連安保理決議六〇五号、六〇七号、六〇八号に従わせること。

(2) 一九四五年の非常措置によるすべての法、軍令、国内的・国際的な措置を廃止すること。

(3) イスラエル軍はすべてのパレスチナ人民の居住地区から撤退すること。

(4) 蜂起で逮捕された人々全員の釈放、追放されたものを帰還させること。

(5) 国連の監視下での、自由な自治体、村落議会の選挙を行わせること。

(6) 一九四九年の第四回のジュネーブ合意および占領地の問題に関するすべての決議、合意を実行すること。

(7) 経済封鎖、殺人、家の破壊、拷問、追放、逮捕、行政勾留、セツルメントの建設を停止すること。

被占領地の人民に以下のことを訴える。

(一) 占領軍に対する蜂起を日々強化し、敵のすべての施設を破壊せよ。

(二) 内部の敵への協力者の一掃を統けよ。

(三) オリーブの収穫時、農民への無償の支援を組織せよ。

(四) 封鎖されている地域と連帯し、食料と医薬品を供給せよ。

(五) 蜂起で負傷した人々、逮捕され

するゼネストの日である

された人々、仕事を奪われを訪問し、彼ハイキを行え領当局の学校に對して抗議する。一〇月九

た人々、殉教者、追放された人々、家を破壊された人々、仕事を奪われた人々と連帯し、彼らを訪問し、彼らを助けるためのストライキを行える教育機関の閉鎖の継続に対しても抗議するゼネストの日である。一〇月九日は、蜂起の一ヶ月目を期したゼネストの日である。

一九八八年九月二七日

P L O / 蜂起民族統一指導部

### ●アピール二七号

#### 「パレスチナ民族の呼びかけ」

一、教育・学校、大学の閉鎖をシオニストは命令している。生徒、学生に教育を禁止している。蜂起民族統一指導部は、国際機関、人道組織、ユネスコに対し、被占領地の現状を重視し、国連総会に持ち込むように訴える。

学校、専門学校、教員組合、学生連盟よ、どんな場所でもよいから、教育活動を続けよ。教科書がなければ、新聞・雑誌、手に入るものの全部を利用しよう。すべてのキャンプ、村、町で、イスラエルによるパレスチナ人文盲化政策を打ち破れ。

二、農業・オリーブの収穫になつていて。パレスチナの農民を援助し

「その（国際中東和平）会議において、また、独立したパレスチナ国家を含むこの地域のすべての諸国間の平和のための国際的保証のための調整の討議と合意のためのフレームワーク内でもたれる交渉を通して、それは可能だろう。我々は、安全保障理事会常任理事国、および、PLOとイスラエルを含む地域の紛争当事国すべてが参加する国連主催の国際会議の召集の基本として、以下のふたつの選択のうちの一つを受け入れることを宣言する。」

「A、安全保証理事会決議二四二と三三八を含むパレスチナ問題に関するすべての国連決議。」

「B、そのなかで最も重要なものが民族自決権であるパレスチナ人民の合法的権利とあわせた決議二四二と三三八号。」

「我々がイスラエルの占領から解放された大地にパレスチナ独立国家を建設するために努力していることを私はつけ加えたい。この国家は、共和的で、民主的で、複数政党制である。その国家は、世界人権宣言を守り、公正な平和は国際法が提供してくれる半分を適用し、半分を捨てることで達成することはできないと我々は信じている。」

り、皮膚の色、人種、宗教によるそ  
の市民の間での差別がない。」

# アピール蜂起民族統一指導音頭

四、蜂起民族統一指導部は、学校をはじめとするパレスチナの機関に対する閉鎖令に抵抗し、自ら開け、仕事を続けることを訴える。もし、建

者は処刑された。攻撃部隊は、裏切り者を監視し、清算せよ。

した代表団として参加する国際会議まで、シオニスト軍を撤退させておくためである。

四、蜂起民族統一指導部は、学校をはじめとするパレスチナの機関に対する閉鎖令に抵抗し、自ら開け、仕事を続けることを訴える。もし、建物自体を開けるのが困難な場合、建物の敷地で、レストランで、庭で仕事を続けよう。

五、蜂起民族統一指導部は、閉鎖されている教育機関を開けること、また、学生にパレスチナを去らないように訴える。ユネスコ、アラブ諸国に対し、この被占領地の教育の現状を最重要視し、国連総会に持ち込むよう訴える。

六、人民委員会に訴える。パレスチナ人民には独立国家が必要である。そのためには独立した人民が必要である。独立、自由の道を進むかぎり、我々の力は拡張していく。

七、蜂起民族統一指導部は、攻撃部隊に訴える。不斷に裏切り者を監視せよ。ヤツタ、アル＝ハリール、アル＝アル＝バラ、キヤンプなど、人民委員会の支持によって、裏切り者を監視し、清算せよ。

八、民族統一指導部は、エルサレムの英雄的人民にあいさつを送る。シオニストの命令に抵抗し続けよう。

九、商人に訴える。商業委員会を拡大せよ。パレスチナ人民が、付加価値税をシオニストに支払ったり、シオニストの商品を買わなくてもよいようにせよ。シオニストのプロパガンダを聞くな。シオニストの営業許可証を貼るな。露店商は商店が閉めている間に商売をせよ。

一〇、家主に訴える。家賃を二五パーセント下げよ。店子はからならず家賃を支払い、滞納を止めよ。

一一、パレスチナ人民に訴える。道路の舗装を剥がして投石するのは止めよ。シオニストの実弾射撃の口実になる。他の石を割って投石しよう。

一二、蜂起民族統一指導部は、パレスチナ人民を賞賛する。石は我々の詩であり、物語である。石が我々の力を表すようになった。パレスチナの石、これは革命を意味するようになつていて。パレスチナ人の腕が石を投げる。雨のように、敵に石を投げつけよ。火炎瓶を投げよ。被占領地人民に次の闘争を呼びかける。

じていた。これは、マロン派の司教スファイル、および、選挙の失敗はレバノンをはかり知れないところに導くと強調したすべてのレバノン人によつて確認されている。

しかし、我々は希望を捨ててはいられない。部分的に進行しているようにレバノンが危機から出口を見出せるよう常にレバノンを援助しようと、仲介者を通して、レバノンが袋小路に入るのを防ぐことができると我々は信じている。ふたつの政府の存在によつて、分割の印が感じられたが、近い将来、レバノンの再統一が、レバノンの統一の象徴である新しい大統領の選出を通して獲得されることを、我々は望む。

問・協議のあと、ダマスカスとワシントンによつて、あなたが唯一の候補者として選ばれたのはなぜだと思ひますか？

答・この質問は米国とシリアに向けられるべきものである。なぜなら、國中が合意するひとりの候補者として、彼らが私に申し入れたからであ

私は、それそれの候補者がこれまでとつていた立場から、選択されたと信じている。私は、個人的に、誰とも悪い関係ではない。私の立場は明快で、統一を支持し、国内外を通して、すべての著名な人材とよい関係を維持している。私を合意の候補者として名前を選んだすべての人には感謝する。

守られ、尊重された。私の立候補が指名に等しいという主張を受け入れることはできない。反対に、それは我々の対立と不統一から我々を救いだすために、我々が介入を懇願した人々のグループからの申し入れである。これらの人々は、我々の願いに応え、政治改革の内容におけるレバノンの和解の試みに参加した。我々はアメリカ人たちとシリア人たちを我々の問題にかかわらせた。そして彼らは、我々と共に、我々の危機の出口に到達するためには長期間、力を専くしてきた。我々は憲法上のデッドラインの接近に直面し、我々は、彼らに和解の立候補者によって、レバノンの和解を行うことを主張したこれが、何が起つたかである。八月一八日の議会で、合意に達しなかつたとき、平静で正常な選挙を行うための道を見つけるために我々を援助するシリリアとアメリカの対話の再開のために、我々は、あらゆる努力を行つた。

答……レバノンの内戦の停止について、は、民兵、および、あらゆる党派に属する武装した男たちの意のままにレバノンがいくつかの小国になることを受け入れるレバノン人はないと、私は確信している。すべてのレバノン人は、レバノンの権威が国隅々にまで行き渡る強い政府を求めている。

軍と治安軍は、レバノンの合法的権威のもとに結集し、レバノンの地域間の旅行で強いられる妨害と民兵の排除、あらゆる種類の武装存在をとり除くために努力すべきである。

港とその他の施設は、国の権威のもとに取り戻されなければならない。これは国際的に承認されている国境まで権威を拡大する南部レバノンでのレバノン軍の展開と一体のものでなければならない。イスラエルは国連決議四二五号の履行を強いられるべきであり、レバノンから無条件に引き上げるべきである。

そのような軍隊は、レバノンの主権を防衛し、わが領土でのいっさいのイスラエルの存在を許さないだろう。レバノンにいるシリア軍は、レバノンの法と主権の回復を援助する復されなければならない移動させら

しをじてはならない。シオニストが蜂起を攻撃し、混乱させる口実になるからである。

五、人民委員会に訴える。人民内部の問題、矛盾の解決を援助せよ。そして、人民内での影響力を拡大せよ。六、人民委員会の緊急のビル建設を訴える。そこに行けば、人民のどんな緊急の要求も充たされるようになります。

七、とくに、人民は、医者、診療所を必要としている。医者は一回の診療で一二シェケル以上とつてはならない。

八、人民委員会の攻撃部隊は、注意を払い、イスラエル軍のローラー作戦、襲撃から人民を防衛すべきである。

(四) 一〇月一五日土曜日は、封鎖されている地域との連帯の日である。一〇月二二日土曜日は、蜂起の勾留されている人々、シオニストの獄中に囚われている人々との連帯の日である。

(五) 一〇月二十四日月曜日は、国連難民救済機関の事務所で座り込みを行ないシオニストが国連決議に従つていなことを抗議せよ。

(六) 一〇月二八日土曜日は、封鎖された地区との連帯の日である。

(七) 每金曜日と日曜日は、祈りの日である。祈りのあとデモを行い、負傷者、殉教者の家族を訪問せよ。

二、民族的普遍性、その最も重要なものであるレバノン、その領土、人民、諸機構の統一の保持と分割と（レバノンのパレスチナ人の）定住の計画の拒否。

三、①レバノンのアラブとしての性格、提携、運命を確認する。  
②その国の民主的大統領制度、議会制度を確認する。

③（南部国境地帯の）イスラエルの占領からの解放を呼びかける

四、すべてのレバノン人のための正義、平等、機会均等を達成し、政治的宗派制度を破棄するための政治制度の改革を呼びかける。

五、①新大統領の早急の選挙と②すべての移動させられた人々の自宅へ

●大統領候補ミカエル・ダーヘル氏のインタビュー

——マンデー・モーニング誌より

問　パリの日刊誌「ルモンド」が、レバノンは、まさに爆発寸前であり分割は事実になつたと報じましたがあなたの意見は？

答　たしかに、とくに、議員の何人かが新しい大統領の選出のための議会にたどりつけなかつた八月一八日以降、議会が大統領として選出するひとりの候補についての合意ができるないのでないかと、選挙の日程を決めるまで心配した。

シリアとアメリカの話し合いが始

身動きできぬまいようにすることを目的にした陰謀を終わらせてることを要求する。

レバノン問題

●緊急国会講演(要旨)

の帰還を呼びかける。

① 国の全地域で、すべての政府機関の仕事の継続。

なければならぬ。シオニストの恐れるのは人民の連帶である。

蜂起民族統一指導部は、次のように訴える。

# レバノン問題

## 資料(3)

### ●緊急国民會議決議(要旨) 一九八八年九月二九日西ベル

の帰還を呼びかける。

六、サリーム・ホス首相の内閣に

①国の全地域で、すべての政府機関の仕事の継続。

②大統領選挙ができるかぎり早く行えるよう必要な政策をとること。



の革新自治体の解体と、七〇年代から八〇年代にかけた階級的労働運動の解体と帝国主義的労働運動への再編、そして、「過激派壊滅宣言」に始まり、沖縄国体戒厳体制、今年のソウル・オリンピック戒厳体制と過激派対策、テロ対策の名目のもとにファシスト的管理支配体制を作り上げてきた。

そして、イデオロギー的にも七〇年代を貫いた反共・反ソ宣伝による、国民の反共意識の醸成と八〇年代に貫かれていた、一方における日本の国際的な役割の名目での帝国主義の世界体制の防衛のための意識の形成と他方における天皇制イデオロギーへの国民の統合を図ろうとしてきた。「民主主義と平和」に象徴される「戦後民主主義」意識の最後的解体を意味している。

日帝権力の御用学者であり、天皇主義者である歴史家の加瀬英明は、

ヒロヒトの死によって、「日本の民族的心理は一九四五年の苦い記憶から解放される」、これで「占領軍によつて押しつけられた憲法を改正す

ることができるだろう」と明確にX

デーの意図を語っている。そして、侵略戦争に対する反省を「不必要な

罪の意識」と呼び、侵略と抑圧の過

度を賛美している。

これらは、まさに、戦前の暗黒時代突入の前夜とどれほど似ていることだろうか。日本帝国主義が必要とするのは、米帝を脅かすまでに

しておらず、敵の土俵の上にあがり、支配階級の政治的代理

人である自民党に対決する勢力ではなくなっている。また、本来的に権力に対する批判者であるべきジャーナリズムも、牙をうしない権力た

めの宣伝機関となることを強制されている。

ヒロヒトの死とそのXデーは、この日本帝国主義の最後的な再編の遂行である。現在、行われているヒロヒトの病状の宣伝とそれによる国民感情の動員。そして、天皇の名による国民的な統制の実現として存在している。ヒロヒトの死からアキヒト即位にいたる過程は、まさに、天皇の敗北、とりわけ、指導勢力の敗北の歴史を意味している。我々はこの歴史を乗り越えなければならない。

これは、日本の革命的、進歩的闘いの名のもとでの国民的動員と戒厳体制の実現としてある。そして、天皇

による反帝闘争を支持するものであるが、事実無根のまま上げようとしている。ソウル・オリンピックの安全を

守るために反対するものを一掃する過程としである。それは、今始ま

る闘いをXデーとの対決のなかで、

軍国主義を打倒しなかったことに

かって、我が日本の人民と革命勢

の敗北、とりわけ、指導勢力の敗北の歴史を意味している。我々はこの歴史を乗り越えなければならない。

我々は、日本人民、アジア・太平洋人民の天皇制との闘いの歴史を引き継ぎ、天皇制を、最後的に一掃す

る闘いをXデーとの対決のなかで、

軍国主義を打倒しなかったことに

かって、我が日本の人民と革命勢

- ガザの五キヤンプに外出禁止令。  
PLF三戦士、南部からの作戦。

合意九周年  
九月一七日 キャンプ・デービッド  
・仏外務省中東局長、ペイルート入り。  
・マーフィー・アサド会談。

九月一八日  
・マーフィー、レバノンでホス首相らと会談。

九月一九日  
・シオニスト、スペイ衛星打ち上げる。

九月二〇日  
・西ペイルートで、車爆弾。四人死亡。  
・ヨルダン開発援助に日本調印。

九月二一 日  
・ジェマイエル大統領、突然ダマスカスを訪問し、アサド大統領と会談。フセイニ、ベリ、ジュンブラットもダマス入り。

九月二二日  
・フセイニ議長、会期をあすに延期と発表。  
・ジエマイエル、レバノン軍司令官アウンを首班とする軍人内閣を暫定政府に指名。  
・アマル指導者ダウド・ダウド他二人がペイルート郊外で暗殺された。

九月二三日  
・ペレス外相国連総会へ。  
・アウン内閣「宣言」ふたつの政府になった。

九月二四日  
・米大使館員二二人、東ペイルートから脱出。  
・ホス内閣改造。

九月二五日  
・エジプト大統領、ムバラク欧州歴訪開始。  
・シオニストの対レバノン調整将校、

九月二六日  
・米新任大使マッカーシー、レバノンに着任。  
・アラファト議長、サウジ訪問。

九月二七日  
・マッカーシー、マロナイト大司教スファイルと会談。

九月二八日  
・元ガザ市長ラシッド・シャワ死亡。  
・西ペイルート郊外で車爆弾。四人死亡。

九月二九日  
・ヨルダン国王フセイン、仏参謀長と軍事共同で話し合い。

九月二二日  
・シリア外相シャラとシユルツ国務長官が会談。国連で。

一〇月一日  
・シリア外相シャラとヒトラーの位置にあるヒロヒトの病状悪化で始まっているXデー攻撃についてこちらでも報道され、その異常さに、近代国家日本のイメージとの落差に、こちらの人々は驚いている。同じ第二次大戦の敗者である西ドイツが戦争の反省にたったさまざまな措置をとっている。ヒットラーの位置にあるヒロヒトが戦犯として一度も裁かれず、また、侵略戦争賛美が堂々とまかり通る日本。Xデーは、この異常さの頂点として日本人に天皇制問題を直接的に問い合わせるものとなるだろう。この異常さを異常であるといい、対決することが必要である。

一〇月二日  
・蜂起一ヶ月目。ゼネストが被占領地で闘われた。

一〇月三日  
・シエラレオネ、民兵諸組織の会議で、政治軍事統合司令部をつくること、で、合意。

一〇月四日  
・イスラミック・ジハド、インド人教授釈放。

一〇月五日  
・アラファト議長、訪中開始。

一〇月六日  
・L.F.、ジェマイエルの支配地区を制圧。

一〇月七日  
・PLO執行委員会チュニスで開く。

米大統領選挙を前にして、世界各国での情勢の流動が起っている。レバノンでは、本文で述べているように、激しくさまざまなものと矛盾がぶつかりあって、緊張した空気が秋風と混ざりあっている。ソウル・オリエンピックが終わって、韓国の学生を先頭とした闘いは続いている。韓国ノテウ政権と日帝の恐怖しているのは「テロ」ではなくこうした民衆の闘いである。「テロ」があるとデマを作り上げた弾圧体制は、民衆の闘いに対するものである。

ヒロヒトの病状悪化で始まっているXデー攻撃についてこちらでも報道され、その異常さに、近代国家日本のイメージとの落差に、こちらの人々は驚いている。同じ第二次大戦の敗者である西ドイツが戦争の反省をたたきこまざまな措置をとっている。ヒットラーの位置にあたるヒロヒトが戦犯として一度も裁かれず、また、侵略戦争賛美が堂々とまかり通る日本。Xデーは、この異常さの頂点として日本人に天皇制問題を直接的に問い合わせるものとなるだろう。この異常さを異常であるといい、対決することが必要である。

編集後記